

第 18 回松阪市環境基本計画策定委員会

日時 平成 18 年 12 月 4 日（月） 13 時 30 分～15 時 40 分



場所 松阪市市民活動センター 外会議室

議題

- (1) 小牧市視察の報告
- (2) 松阪市市民活動センターについて

出席者 10 名

策定委員会委員 5 名

西 孝、石川通子、石村武紀、川村敏也、小坂滋子

松阪市市民活動センター センター長 米山哲司

事務局 4 名

前川環境課長、三田環境推進担当主幹、谷岡環境推進担当主査、若山環境推進係主任



議事の内容

(1) 小牧市視察の報告

※11月29日に、小坂委員と事務局2名（前川環境課長、若山）の3名で、小牧市の環境パートナーシップ会議を視察。

小牧市は、市民・事業所・行政（市）の連携で環境に取り組むことを目的とした「環境基本計画」策定のため、市民公募を行ったところ43名の市民が集まった。

その43名で、平成13年「エコプラン研究会」を設立。

「エコプラン研究会」を7つ（環境教育・自然・エネルギー・ごみ・リサイクル・公共システム・環境情報）の分科会に分け、それぞれが「小牧市環境基本計画」への提言を行った。

事業所には、ISO14001の認証取得事業所、及び認証取得に取り組んでいる事業所、計39社からなる「こまき環境ISOネットワーク」を通し、環境に配慮した活動や情報交換などを行っている。（平成13年設立）

市民・市民団体・事業所・行政が協働して環境活動を推進するため、「こまき環境市民会議」を平成18年に設立。

この「こまき環境市民会議」は市民公募としたが応募者がいなかったため、「エコプラン研究会」から参加者を募った。

「エコプラン研究会」の7分科会に所属する様々な団体の代表者のほか、環境活動を行っている個人や事業所など、多くの方が「こまき環境市民会議」に参加している。

「こまき市民会議」は様々な行事を開催しており、昨年度は『落語から学ぶエコライフ』『こどもとおとなの環境会議』など、計4回の行事を開催した。（市の助成金あり）

「小牧市公共施設アダプトプログラム」とは、市民が小牧市の公共施設の里親になる制度であり、環境美化に対する市民意識の高揚を図るとともに、市民と市の協働による環境美化を推進している。

平成15年に設立されたこの制度には、現在380名が加入している。

年4回以上の活動が必要であり、届出等の事務手続きも煩雑。

この制度の下には、年1回の活動の「クリーンアップ事業」がある。

委員：この「こどもと大人の環境会議」は、環境教育の面から見てもなかなか良い企画だと思う。落語に絡めて環境活動を訴えるのも面白い企画。やはり、こういう基本法を一般に広めるには、こういった組織が必要だと思う。小牧市は基本法作成に関わった43名がそのまま環境活動に加わっているが、松阪市の場合、もし我々が関わるとしたらどうするのか気になるところである。

委員：小牧市の人口は？

委員：15万人。この数字だとイベントの参加人数は少ない、と私は思う。

委員長：小牧市には農村部がありませんね。

委員：松阪市は広いので、何をするのもやりにくいと思う。

委員長：「市民会議」の活動費はどこから出ているのか。

委員：それは市から。

事務局：環境フェアは4部門で開催し、その中の環境部門に対して100万円、「落語」と「こども会議」に50万円。

事務局：担当者によると、食べ物や無料配布などを行わないと集客は難しいらしい。2日間で3万5千人は、環境単独では無理だと思う。

委員：主に市民？

事務局：市内在住者でしょう。

委員：人口の2割。

事務局：主催者発表なので、多少の誤差はあるかも。

委員長：水質調査も市民がやっている？

事務局：これはグループでやっているらしい。

米山：以前、ベルファームで行事を開催した時は3,500人だった。それでも駐車場は常に満車で盛況だったので、この3万5千人というのはいい数字だと思う。

委員：松阪市だとベルファームが一番大きい？

米山：まあそうだが、駐車場を考えるとベルファームで5,000人を超える集客は、実質難しいと思う。

事務局：ベルファームの初日は、周りの道が非常に混雑、渋滞した。

事務局：駐車場の台数から人数を割り出す方法があって、多分この計算方法なのでは。

米山：ベルファームは駐車場にカウンターが付いているので、正確な値だと思う。

委員長：「市民会議」の事務所は？

事務局：環境政策課。

米山：その活動金額でこのチラシの内容だとすると、随分手弁当の感じですね。

事務局：費用対効果はすごいと思う。

米山：この内容だと300万円くらいだと思う。

委員：「アダプトプログラム」と「市民会議」との関係は？

事務局：あまり無いですね。ただ、この「市民会議」のような土壌が無ければ、このような里親制度はできなかったと思う。事務局は少ないというが、400名近い人がこんな面倒な手続きをして、年に4回以上環境活動をするというのは近来無いと思う。そういう意味では、土壌の成り立ちと深い関わりがあると思う。

委員長：何も無いところから、こういうことは出来ないからね。

事務局：いろんな小さい団体に光を当てていく取組みを今後していく。例えば看板を作って、この施設はこの団体が管理しているとか。

委員長：この資料を見ていると、ごみ拾いなどどこまで取り組んだか分からないものがある。ゼッケンを付けたり、看板を立てたりするなどして、団体名がわかればいいのに、と気になった。

事務局：看板は立ててあるそうです。

委員：基盤になっているのが「エコプラン研究会」で、そこから派生して「市民会議」が出来ている。松阪市にも、環境市民団体はたくさんあると思うので、そのネットワークを広げるとか。

委員長：市民活動センターには、環境活動をしている団体はありますか？

米山：センターは登録制になっており、215の団体が登録している。その中で、33団体が環境保全活動を行っている。環境にも様々な活動があるので、団体間の交流は無い。今後進めていければ、と思っている。

委員：登録とは、ここを使用するための登録？

米山：そうです。登録料はいらませんが、知らない人に備品等、大事な機器をお貸しするのは問題があるので、活動内容を報告していただき、政治や宗教に関係ない申告の中でご利用いただくようになっています。

委員：『里親』とは具体的にどういうことなのか。施設の管理とは？

事務局：運営を任せるというのではなく、掃除道具を貸し出したり、保険をかけるなどして、掃除してくれる人を支援するような役割に留まっている。

委員：掃除道具の保管場所は？

事務局：契約を結んだ施設で用意する。保険は事務局の環境政策課がかけている。

委員：『アダプトサイン』とは何か？

委員長：この施設はどこが里親かを示す看板みたいなものでしょ。

委員：里親制度の提案者は？

事務局：議会でも里親制度について提案があって、環境部長が建設部門に移ったので調整を行った。

委員：「環境基本計画」が策定されたのはいつ？

事務局：平成15年3月。「エコプラン研究会」は平成13年6月に発足、1年かけて提案書を作った。

委員：「こまき環境市民会議」ができたのはいつ？

事務局：平成16年に「エコプラン研究会」の中から約20名で構成。

委員：では平成16年ですね。「アダプトプログラム」の要綱ができたのが平成17年。

事務局：ただ、この「アダプトプログラム」は「こまき市民会議」とは直接の関係はない。

委員：「アダプトプログラム」は市の事業？

事務局：そうです。ただ、この「市民会議」のような団体の土壌が無ければ400名もの参加はありえなかったと思う。

委員：小牧市の面積はどれくらい？

事務局：調べてきます。松阪市よりも小さいと思いますが、市としてはコンパクトにまとまっている。

委員：小牧市長の環境への関心の高さは？

事務局：「環境基本計画」が出来た時に、「環境基本条例」も作っています。それ以前は環境に関する条例も計画も無かったので、決して進んでいる市とは言えないと思う。

委員長：どうもありがとうございました。

(2) 松阪市市民活動センターについて

米山：今後増えてくる退職者の方がボランティア活動に参加することにより、市民活動が増加するという報告、調査が出ています。市民活動とは、NPO法で17のジャンルに分かれており、その中の一つに「環境の保全」があります。この市民活動センターに登録されている215団体中、33団体がこの「環境の保全」活動をされており、今回お渡しした資料のアンケート調査を行い、13団体から回答を頂きました。当市民活動センターは、団体の支援・育成・交流の3本柱を大事にしながら、さらに活発に活動できるように当会議室等をお貸ししたり、団体同士の交流のための情報提供など、様々なサポートをしています。3年前にこの市民活動センターは設立され、2年間の公設公営を経て、今年4月から指定管理者制度に基づき公設民営となりました。私どもが担当して8ヶ月になりましたが、民営化のよさを出すとともに、コスト削減とサービス向上を目指して運営しております。今回、「環境基本計画」や「環境パートナーシップ会議」のお話を聞き、地元の市民活動も関わらせてもらうべきではないかと思いました。

登録団体ですが、33団体が非常に様々な環境保全活動をされています。レジ袋削減やまちの清掃など、大きな枠組みで環境問題を提言されている方々がいらっしゃいます。このように様々な活動のため、団体同士の交流がなかなか難しい状況です。これは環境のジャンルだけでなく、福祉やまちづくりの団体にも言えます。ただ、思いや願いは同じなので、良い形で繋がれば、さらに強いものになるのではと思います。資料のアンケートですが、「環境基本計画（中間案）」を参考に、各団体の活動項目や活動取り組み内容、さらに「環境パートナーシップ会議」への参加有無などをお聞きしました。主に地域で活動されている団体が多く、町内の公園や近所の川・海の清掃や、登山が好きな方が清掃登山をする、EM菌に取り組むなど様々な活動が見られます。山や川といった身近な守りたいものに対して積極的に行動しているのは、非常にわかりやすく目的の見えやすい活動であるため、人も集まりやすいのではないかと思います。漠然と何かをするというよりは、明確な目的をもった活動で目に見える評価、というのが多くの市民団体の活動だと思います。この山・川・町とい

ったジャンル、エリアを越えて手を繋ぐことが出来れば、さらに面白い環境になるのではないかと。様々な団体がイベントを開いて活動発表や活動自慢をされることが、喜ばしいというか褒めていただくべきことだと思うので、よりよい活動につなげる為にも、そういった活動には大きなところから評価、表彰などしてもらおうと喜ばれるのではないかと思います。個別の活動がバラバラという印象が抜けきれないので、それらを繋ぎ合わせて、一つの方向性やビジョンを持って何かを目指すということがあれば良いのではと思います。市民団体の取組みを沢山の人に知ってもらうため、催し物や広報紙などで伝えることにより、仲間が増えて輪が広がると考えています。「環境パートナーシップ会議」への参加希望団体が比較的多いと思いますので、センターに声をかけていただければ橋渡しをしたいと考えています。人手不足のため参加できないという団体もあり、今の活動にプラスアルファとなると、どうしても重く感じてしまうこともあるのではと思います。まずは間口を広げていただき参加しやすくすることで、良い繋がりが出来て一体化が生まれると思っています。

資料の最後のページに、環境にやさしい商品化案を企業に提案している団体を紹介しました。環境の取組みの中で、地域をきれいにすること以外に、改善していくという考えもあるのではないかと。その改善していくという考えの先に、企業の取組みがあるのではないかと。市民活動センターとしても、市民団体のサポートだけでなく、企業の社会貢献を広げていこうと考えています。CSRの活動として、企業は様々な環境の取組みを報告書として出しています。こういうことを皆さんに知っていただきたく、センターでは170社の報告書を集め、皆さんの目に止まる所に置いてあります。先日の氏郷祭りの際に、市民活動センターのPRとして、シャープとマックスバリュと一緒に出展し、地域貢献活動と市民団体活動、両方のPRを致しました。団体だけでなく企業も巻き込んで、共に何かを組み立てていく活動、上手くいけば企業が団体をサポートするような、企業の活動に団体が人的要因でサポートするとか、そういうお付き合いが膨らめば、センターとして橋渡しができるのではと思います。今後策定されるであろう「環境パートナーシップ会議」に対し、前向きに考えている団体がいらっしやいますので、是非ともセンターに橋渡しをさせていただければと思います。

委員長：米山さんのNPOは、どのような活動を？

米山：指定管理者制度で選んでいただいた時は、まだ任意団体でした。松阪市と協定を結ぶ際に「法人格を取得すること」という契約内容があり、決定後に法人取得しました。なので、当面は施設管理が主たる業務になります。まちづくりや、元々やっていた催し物の運営などで地域を盛り上げていければと思います。

委員長：名称は？

米 山 : NPO法人「Mブリッジ」といいます。企業と団体の橋渡しの役割を考えており、それ以外にも活動内容を広げていきたいが、まだなにぶん設立して日が浅いので。

委員長 : 常勤職員は？

米 山 : 常勤役員は4名、パートの2名で計6人です。

委員長 : NPO法人としての仕事は、このセンターの運営ですか？

米 山 : そうです。

委 員 : 松阪市からの指定管理者としての委託業務と、自分たちの業務。企業の報告書を集めているのは、自分たちの業務ですよ。

米 山 : そうです。市からの業務委託書に基本的なことは書かれていますが、CSRの収集は自主的なものです。

委 員 : 他に自主的にやっている業務は？

米 山 : ある程度は任されているので、講演会、報告書収集、HP作成など、団体の要望に応えるような活動をしています。市の委託業務である施設管理は必ずやらなくては行けないが、それ以外は自主的活動です。

委 員 : そういった自主的活動が、指定管理者として選ばれた対象になったわけですか？

米 山 : だと思います。他の団体のプレゼンも非公開でしたので、こういった基準なのかわかりませんが、前向きな取り組み姿勢が認められたのかなと。やらなくてもいい事をやっているわけで、団体の要望を中心に活動しています。

委 員 : 団体の要望を中心にやっていると。

米 山 : そうです。「こういうことをしたい」と要望が出た時に、お金がかかることはできないが、コストを下げるために参加費を頂いたり、講師の報酬費を下げるなどして、なるべくご要望には応えるようにしています。

委 員 : 指定管理者としての施設管理と市民団体活動の支援、これが「Mブリッジ」としての主な業務にあたるわけですか？

米 山 : 「Mブリッジ」の中の役割のひとつに施設管理があります。

委 員 : 施設管理以外の自主的活動の評価は誰がするのか？さらに、来年はどういったことをするのかということ、どのような方々と協議して進めているのか？

米 山 : 私どもの上層部に市民活動センター運営委員会がありまして、市役所職員が1名、登録団体の中から公募した14名の計15名で、適切にセンターが管理運営されているか、私どもが年に4回報告して評価を受けます。

委員長 : 「Mブリッジ」さんがここの運営を任されて約8ヶ月になりますが、それまでの公設公営のやり方と比べて成果などありますか？

米 山 : 今までの公営だと、先ほどのような企業名が出ているものは表に出せなかったことがあります。企業のPRと誤解されがちでしたが、これには社会貢献活動も十分載っていると説明すると、皆さん「見たい」と言われます。ここを正し

い情報の拠点地にしたいと思います。地域の催し物のチラシやポスターなども、もっと集めていきたいと考えています。また、ケーブルテレビと連動できればと思っています。どんどん活動して行って頂きたいので、メディアを使って団体のPRを進めていくうえで、番組を持つことも考えています。こういったことも、公の時には出来なかったことだと思います。三重県のH.Pのように、企業の広告を載せることによりコスト削減が図られ、H.Pが推進しやすくなる。市民活動センターでも、H.Pや広報紙に企業の広告を載せることにより広告費が得られ、コスト削減が図られると共に、市民活動の支援金として循環させていきたい。団体の補助金、助成金の受け皿になればと思います。松阪市には市民活動団体への補助金が無いので、センターが企業協賛や広告収入を集めて、団体をサポートできたらと考えています。こういうのが民営化の違いかなと思います。団体の方のお悩みは、一番が運営資金・活動資金といったお金の問題、次に人が集まらないといった人の問題。そのような団体のお悩みや希望を最優先しながら、取り組み内容を決めていくセンターにしたいと思っています。

委員長：市から委託された指定管理者制度は何年ですか？

米山：3年です。森林公園と市民活動センターが公募型の指定管理者制度で3年、ベルファームが5年です。試験的に3年間で始めたそうです。次からは5年になるのではと思います。3年だと事業が組み立てにくいので。

委員長：ここのメンバーは代わらないということですね。公設公営だと人事異動で2、3年で代わる可能性が大きい。

米山：特に本人の要望が無ければ。スタッフも強くなっていかないといけないので、今の形でやっていければと思います。

委員：登録団体は部屋代はいらないのか。

米山：部屋代200円は頂きます。駐車場代はいりません。

委員：会議室の料金はどこが管理するのか。

米山：会議室の料金は法人の収入になります。駐車場代は松阪市が利用人数に応じて、ビル管理会社に支払います。松阪市の財政状況が変わった場合は駐車場代を払う事になるかもしれませんが、それは法人収入にはなりません。

委員：登録団体が市民活動センターを利用する場合は、部屋代は必要だが駐車場代は無料。今日の我々の駐車場代は、市役所が負担するという事。

米山：駐車場のチケットに無料処理をしますが、処理数分の代金を市が管理会社に支払います。登録料金をとるような市民活動センターもありますが、ここでは登録無料です。何かを策定される際に、団体との橋渡しとしてここをご利用いただくことがセンターとしての使命であるので、会議室で会議するだけでなく、上手く繋ぎ合わせてもらえたら有難いと思います。

委員：センターの使命は紙に書いてあるのか？

米 山 : 業務委託書があります。そういう基本方針でここを造られて、過去2年間の公営の時もそういう姿勢で運営されていて、民に引き継ぐ時もその方針は変わりません。

委員長 : 今の業務で手一杯？

米 山 : 手一杯ですね。6人を10時~22時のローテーションで回っていて、2.5人/時の体制になり手一杯の状況です。もう一人入れればいいのですが、なかなかそうもいきません。

委員長 : 常時いる人は3人くらい？

米 山 : そうですね。利用の多い時間帯や曜日に合わせています。

委員長 : 結構忙しいんですね。

米 山 : そうですね。手が空いた時は掃除や備品の保守点検などをしたり、登録・予約業務などもありますので。暇な時間はあまり無いですね。

委員長 : ありがとうございます。他に何かありますか？

委 員 : 飲食は？

米 山 : 飲酒以外は構いません。火気厳禁です。

委 員 : 市民団体以外でも利用できますか？

米 山 : 登録していただければ出来ます。

委 員 : 登録は市へ？

米 山 : いえ、市民活動センターへ来て頂いて。最終的な判断は運営委員会ですが、宗教や政治に関わらない団体であれば構いません。

委員長 : メールボックスも？

米 山 : 無料で利用できます。私書箱扱いに利用されている団体もあります。女性だけの団体は、氏名や住所を出したくないということで利用されています。

委員長 : 他によろしいですか？ありがとうございます。

(3) 今後の策定委員会のスケジュールについて

事務局 : 次週で「環境基本計画」も最終案になりますが、中間案では『環境パートナーシップ会議』を作るところまででした。そこから一歩進んで、どういうものを作ればいいのかということで、今日は市民団体についてお話いただき、非常に参考になったと思います。次回の最終案に向けてポイントを押さえたい。まず、資金・人・情報の問題。『パートナーシップ会議』を考える最初の委員会でお渡しした資料にも書きましたが、資金の問題、リーダー（人）の問題、情報の問題、この3つが『パートナーシップ会議』を進めていく上で、一番のポイントになってくると思います。先ほどのお話で市民活動センターの公と民の違いで、資金・人・情報の面において、公のときよりも数段に上手くいっているよ

うに感じます。また、団体間の交流が無いというのも、ひとつのポイントだとも思います。小牧市が「市民会議」のメンバーを個人に公募したところゼロだった。なぜゼロだったかという、小牧市は施策に対して協力してもらえる人、いわば支援的な人として集め出したからです。結局、団体間に募集をした。団体間の意見の違いもあり、運営は非常に難しいと言われている。団体を集めた時に、『協働』の意味を考えていなかった。『協働』とは、市民団体で出来ること、行政が出来ることを繋ぎ合わせる。これが、『パートナーシップ会議』を立ち上げていく上で非常に必要なことである。いきなり作るにしても、団体間の交流が無いと難しいということもあり、まず団体間の交流を図って、次に目指していくものが何かという意志共有を図る段階が、かなり難しいように今日の話の中でも感じられます。さらに、環境フェアなどのイベントを開催する段階が必要で、最終的に、資金面も含めて自立した団体がいるということまで視野に入れて活動を進めていくことが重要である。小牧市でも、市の委託金だけでは活動しにくいということで、資金面での自立も含めて、ある程度自立した運営ができるよう考えている。そういう意味でも、CSR（企業の社会的責任）を上手くとらえて、企業のバックアップが活動資金として流れるような仕組みを組むということも、次の自立的な団体としての方向性も見えてくるかもわからないので、市民活動センターとは今後いろいろな面で関わらせていただきたいと思います。そういったことも踏まえて最終案を提示して、皆さんの意見も取り入れて進めていきたいと思っています。

委員長：本来は公がやるべき事を、安く民間にやらしてもらおうと考えていると、なかなか上手くいかないし、金も出すが口も出さずというのも上手くいかない。その辺を条文などで仕組みについて作る必要があるのではないかと思う。役所サイドで良いことばかり言っても、なかなか進まないと思う。市民活動センターでも、業務委託書に最低限のやるべきことがあって、運営に関しては、市の職員が入った運営委員会がコントロールしているシステムになっている。そんな工夫も必要になってくるでしょうね。

事務局：枠組みや経路、仕組みというものを上手く考えることによって、上手くものが流れたりすることになるので、そこだけ考えると難しい話です。当然いろいろな方々と関わりあって良くなっていくと思う。

委員：市も、各部署の担当を使い分けて協力していけば、少しは上手くいくと思う。我々も「まちづくり」で携わって出させてもらっているが、応用の仕方によっては、行政と協働体でいけるような部分がこれから出てくると思う。お互いが面倒がらずに、上手く協力し合っていけるような方法を、資金面でもなるべく使わずに済むような方法でいけば上手くいくと思う。漠然と行政と言われても、どの課が担当なのかわからない。これを上手く橋渡ししてもらい協力し合えるような、また市民団体に対しても、行政が上手く出来る方法を言い出していけば、松阪市も多少は良くなると思う。何もかも市民に押し付けられても、

『忙しくて出来ない』とかになる。お互いに知恵を出し合っていけば上手くいけると思う。環境問題に対して、知識を持って活動している方は他にもいると思う。まちづくりに関しては、私の団体も微力ながら活動している。

委員長：次回、仕組みについて具体的に検討したいと思う。

委員：松阪市は広いので、地域性の違いがある。旧松阪市以外ではこの場所も知らないし、知っているても登録してまで行く気にならない。このような拠点が幾つかあればいいと思う。

委員：飯南町からわざわざ来ないでしょうね。

委員：車に乗れないと動けない。

委員長：各地にあれば理想ですが、すぐには出来ない。そんなことも次回検討して。

委員：小牧の場合でも、上から見ても下から見ても合わないという、そんな繋ぎ目が難しいと言われる。無理やり引っ張るのではなくて、今までの自分たちの活動の一つと理解してもらえて、活動につながるようになればいいのかなと思う。

委員長：絶えずここを利用してもらい、望む団体がないか紹介してもらおうような仕組みになっているが、PR不足で知らないと思う。

米山：徐々に膨らんではいるのですが。

委員長：そういうことで、次回12月14日に。ありがとうございました。